

# 平和についてのメッセージ

Peace for Tomorrow

広げよう平和の心

「平和の鐘」の集い2017 スピーチ集

2017年8月15日

広島ユネスコ協会

# 平和についてのメッセージ 目次

(ページ)

- 1 平和の鐘のスピーチ  
第20代高校生平和大使 久永 風音 . . . 1
  
- 2 終戦記念日に (英語スピーチの日本語訳)  
高校生 目崎 七海 . . . 2
  
- 3 上記の英語スピーチ 高校生 目崎 七海 . . . 3
  
- 4 平和についてメッセージ 高校生 齊藤 優奈 . . . 4
  
- 5 平和のための協力 韓国ユネスコ大邱協会会長  
南 相杰 (ナム・サンゴル) . . . 5
  
- 6 平和についてメッセージ ワールド・フレンドシップ・  
センター館長 バーバラ・シェンク . . . 6
  
- 7 平和についてメッセージ ラオスからの広島市研修生  
アルーン・フェングマニー . . . 7

## 平和の鐘のスピーチ

私は、第20代高校生平和大使を務めております、久永風音と申します。

私が最初に平和について考えるようになったのは、幼い頃 ヒバクシャの方のお話を伺った経験からです。

突然、自分の住む町が地獄と化し、さっきまで隣にいたはずの友達が黒焦げの姿で息絶えている。そんな惨たらしい状況の中、自分だけ生き残ってしまったうしろめたさ着ていた衣服は全て焼け落ち、血だらけの体でうめき声を上げながら自分を助け出してくれた母の死を、幼いながらも受け止めなければならなかった残酷な現実...

そんな、思い出すのも辛い、あの日の胸の内を、なぜヒバクシャの方は私たちに語ってくださったのでしょうか。それは、ヒバクシャの高齢化と共に風化しつつあるヒロシマ、ナガサキの悲惨な事実を、未来を生きる私達に、二度と同じ悲しみを経験させたくないという強い願いがあるからです。

私は、これまで自分なりに平和の大切さを理解していたつもりでした。しかし、高校生平和大使の活動を始めたことにより、改めて、私たち世代にはヒバクシャの方の想いを受け継ぎ次の世代へ伝えていく義務があるということを感じました。

と同時に、核の恐ろしさを知らず、平和な時間は明日も 明後日も当たり前に来るものだと信じて疑わない若者が多くいることに、危機感を抱いています。

今、私たちに求められていることは、まさに『つないでいくこと』。

毎年この季節に様々な人が様々な場所に集まり『平和』について共に語り合い、耳を傾け、考え、共感し、そして行動する。『一致』と『心理』と『希望』を追求し続けてきたこの時間、まさしく『今』が核のない世界を実現するために私たちにできる『最善』なのです。

ヒバクシャの声に耳を傾け、自分達の手で平和を作っていくのだと、強く願う人が一人でも増えていくことを、私たちは願っています。

人は、『人』というだけで誰でも大切な存在です

この地球上にある命は全て、価値ある尊いもの。

どこの国の人でどんな肌の色でどんな言葉を話していようとかけがえのないものです。

私たちが持つべきものは、核兵器ではなく愛の力です。

愛という結びの帯を、自分の周りにいる身近な人たちからつないでいき、やがて世界中に広がり、互いに愛し合い、許しあい、人の痛みを自分の痛みとして感じるができる。

そんな優しさの帯を核兵器がなくなる未来に向かって、私はつなぎ続けていきたいと思えます。

第20代高校生平和大使 久永 風音

## 終戦記念日に（英語スピーチの日本語訳）

わたしは、目崎七海です。広島の高校2年生です。

72年前の今日、日本国民にとっての第二次世界大戦は「敗戦」という形で終結しました。それまで、「正義」のために闘ってきた国民は、傷つき、疲弊し、飢え、大切なものを失い、そして何よりそれまで絶対だと思っていた価値観を覆され、途方にくれました。

特に、ここ広島は、人類歴史史上初の核兵器である原子爆弾が投下されて甚大な被害を受け、多くの方が亡くなったとともに、きわめて長期間にわたって放射線の後遺症（原爆症）に苦しんできました。私の祖母の友人は、体内被曝により小頭症という病に現在も苦しんでいます。彼女自身は原爆の恐ろしさを目の当たりにはしていないけれど、たった一発の爆弾が罪のない彼女の人生を72年たった今でも狂わせ続けているのです。

しかしながら、原爆の犠牲者は彼女だけではありません。原爆によりこれまでに30万人以上の方が亡くなりましたが、その一人ひとりに家族があり、物語があるのです。

戦争はいつも、「正義」のために行われます。しかし、何が「正義」かは、時代によって、国によって、そして時には個人によって異なります。ときには、まったく同じ「正義」という言葉で、真逆のことを意味する場合があります。このことを思うと、人々が命を懸けて守ろうとする「正義」が、いかに危ういものであるかを思い知らされます。

2度の世界大戦を経て、世界平和を築くことの重要性を認識したはずの世界は今、しかしながら再びナショナリズムやポピュリズムに傾きつつあります。このことが他者への不寛容に繋がることを、世界中の多くの方が危惧しています。

「真の平和とは何か。」この答えは、人によって異なるのかもしれませんが。わたしは、真の平和とは、すべての人が自らの望む自己表現を目指すことができることだと考えます。原子爆弾は特殊な兵器であり、その被害もまた特殊です。しかしながら、その犠牲者の方々の真の願いは、その特殊な惨劇から、普遍的な教訓をわたしたちが引き出し、これからの人類の未来に役立てていくことだとわたしは思います。いまだ世界中には戦争や紛争が絶えません。また、武力による争いだけでなく、飢餓や貧困、政治的・宗教的確執、文化に基づく差別、いじめなど、さまざまな要因によって、自分の望む人生を歩めない人たちがいます。

そしてそれは、一見平和に見えるこの日本においても同じです。

“we must have the courage to escape the logic of fear” と、昨年広島を訪れたアメリカの前オバマ大統領は言いました。わたしたち人間には、高度な思考力と、自分の考えを伝えるための豊かな表現力、そして相手を思いやる思慮深さが与えられています。

いろいろな歴史や価値観を持つ世界中のすべての人が理解し合うのは、もちろん、容易なことではありません。しかし、わたしたちは傷付け合い、奪い合わなくても、与えられたその能力を十分に発揮することで、共存共栄できる方法を探し出すことはきっとできるとわたしは信じています。ときには葛藤を抱えながらも、思慮深い選択ができるのは、人間であるからこそです。「すべての人は美しい」と、わたしは信じています。

わたしは、今日、この場で、広島の高校生を代表して、わたらしいやり方で「真の平和」の実現のために真剣に取り組むことを誓います。

2017年8月15日

高校生 目崎 七海

ご清聴、ありがとうございました。

## On the anniversary of the end of war (英語スピーチ)

Hello, everyone. My name is Nanami Mezaki. I am an 11<sup>th</sup> grade-student in Hiroshima.

72 years ago today, the war for Japanese people ended. We were defeated. People who had fought for “the justice”, were hurt, impoverished, starved, and they had lost many important things. Most of all, they were at a loss with the fact that the sense of value that they believed absolute was overturned so easily.

Here in Hiroshima, the first atomic bomb was dropped for the first time in the human history. The weapon gave an enormous damage to this city. Many people died in a moment or within 24hours after the bombing, and some are still suffering from aftereffect of radiation. A friend of my grandmother is one of those. She is still suffering from microcephalia, in Japanese 小頭症, which is one of the birth abnormality caused by radiation exposure in womb. Only one atomic bomb dropped 72 years ago changed a whole life of an innocent baby completely. It is incredibly terrible! However she is not the only one victim. The bomb has killed more than 300thousand people so far, and every victims had a family and their own dramas.

Nuclear weapons are clearly inhumane weapons. It is natural that everybody on the earth wants to eliminate them. However, why is it so difficult to give them up?

When wars break out, leaders often say the purpose is to protect “the justice”. Many people die for the name of “justice”. However, now, we know the fact that “the justice” varies across the ages, countries, religions, even each persons. The word “justice” may sometimes mean completely opposite things. What an empty word it is! People in the world experienced the two World Wars. Through the bitter experiences, we are supposed to realize the importance of the effort to keep a peace. These days, however, some countries or some peoples in the world begin to show a trend of growing nationalism and populism. Many people all over the world are afraid that the trend makes people intolerant to others, and leads to another big conflict.

“What is true peace?” The answer may be differ in individuals. In my opinion, it is the state that allows people to pursue their self-realization. Needless to say, an atomic-bomb is a special weapon of mass destruction. However, the true wish of the “Hibakusha” is that the people in the world take a universal lesson from the special tragedy, I believe. The world still has many wars and conflicts. Not only the conflicts of arms, but also starvation, poverty, political and religious conflict, various forms of discrimination or bullying do not allow many people to live in their own ways. And that’s true even in Japan today.

“We must have the courage to escape the logic of fear”, said Mr. Obama, the ex-president of the United States, when he visited Hiroshima last summer. We are given the high level ability to think, to imagine, and to express our thoughts to the other people. We can be considerate to the others, while we can make an assertion to protect ourselves. It is not easy for all the people in the world to understand each other completely, of course, because each person has their own backgrounds. However, I believe that we can seek the way for mutual harmony and benefit without using force. We don’t need to hurt the others to deprive them of something we want. We just need to make excellent use of the powers given to us. Because we are humans, we may sometimes need to overcome inner conflicts. On the other hand, we can make judicious decisions through dialogues with others, only because we are humans. I believe that every human is beautiful.

Today, as a representative of the high-school students in Hiroshima, I promise to work hard to realize “true peace” in my own way.

August 15<sup>th</sup> 2017

Nanami MEZAKI

Thank you for your attention.

## 平和についてのメッセージ

72年前の8月6日、広島の人々から一瞬にしてささやかな日常を原子爆弾は奪いました。本当に、瞬く間に。

世界で初めて核が使用されてから72年たった今、私達日本人の若者は新たな岐路に立たされています。

現在、原爆を経験された方々の平均年齢は80歳を超えています。これは、戦争そして原爆を経験していない私達が、直接に被爆された方々のお話をお聞きすることができる時間がもうほとんどないことを意味しているのです。

広島で生まれ育った私は、小学生の頃から様々なかたちで平和学習に触れてきました。戦争に関する映像を授業の一環として拝見しましたし、社会見学で広島平和記念資料館に足を踏み入れたこともあります。その平和学習のなかで何度か、被爆された方々のお話をご本人から直接にお聴きする機会がありました。

皆さん、座ってお話に耳を傾ける私達生徒に向けて、その一つ一つのお言葉に本当に強い思いをこめられて語りかけられているのがひしひしと伝わり、自分がそれまでいかに原爆、そして戦争の恐ろしさ、非人道性をただ理解したつもりでいたのかを痛感したのを覚えています。

また、お話をしてくださった方のなかで、こんなことを言われた方がおられました。

「被爆した直後は、自らが原爆を経験したことを周りの人に一切語ることは出来なかった。時を経て、原爆の恐ろしさを後世にやはり伝えねばと、自らの被爆体験を学生の皆さんに語る活動をはじめたものの、最初は記憶を思い起こすと涙が溢れてとまらなくなり、講演会を中止せざるを得なかった」

被爆の体験を語ってくださる方々は、命をかけて私達に原爆の恐ろしさを伝えてくださっています。私達はその方々の言葉、声を直にお聞きすることができる、最後の世代になるかもしれません。被爆された皆さんが命をとして伝えてくださる言葉を、私達は一句一言違えず心に留め、後世へと伝えねばならないのです。

今年、核兵器禁止条約が国連で採択されました。核を非合法化する初めての条約です。これは、広島そして長崎に原爆が落とされてから72年たった今なお、核問題と向き合う世界にとって、核廃絶への小さな一歩です。

私達は被爆された方々から直に伝え聞いた核の恐ろしさを、今こそ後世へ、そして世界へと発信しなければなりません。72年前の今日、戦争は終わりました。しかし、私達の核廃絶、そして本当の平和の実現へ向けての「たたかい」はこれからなのです。

2017年8月15日

高校生 齊藤 優奈

## 平和のための協力

終戦72周年の記念日を迎え、日本国政府と国民が、終戦後、今に至るまで世界平和の実現のため、国際社会に積極的に寄与してきたことに対し、敬意を表します。

現代の人類は、科学と技術の発達により文明化した地球村を作り上げ、暮らしています。しかし一方では、宗教、人種、民族などを原因とし、また国家相互間の利益の衝突などを原因とし、世界の至る所で紛争が続けざまに起こっています。特に無慈悲なテロが発生し、多くの人々が無念の犠牲を強いられています。のみならず、北朝鮮は、ミサイル発射と核実験により挑発を続けることで、国際社会に対し葛藤と緊張を高めています。

韓国政府と国民、日本国政府と国民、そして両国のユネスコ協会会員は、このように過激にテロと挑発を行う人々の心の中へ、憎悪の代わりに人類愛を、復讐の代わりに許しを、闘争の代わりに和解を教え悟らせなければなりません。

そうして彼らが、銃ではなく対話と協力を選択し、平和的な方法で問題を解決するよう説得する努力を、粘り強く行わなければなりません。そして我々自身から、家族、隣人とともに、平和を愛し、実践する努力をしなければなりません。

我々は平和が脅かされている問題を解決するため、このように知恵を集め、平和を実践し、世界平和を実現することに多くの役割を果たさなければなりません。

我々すべてが、ユネスコ理念により平和の鐘を再び鳴らし、平和を愛する心で協力し、世界平和の道を作っていくことを切に祈願します。

2017年8月15日

韓国ユネスコ大邱協会 会長 南 相杰 (ナム・サンゴル)

## バーバラ・シェンクWFC館長のメッセージ（日本語版）

私の主人と私は、新しいワールド・フレンドシップ・センター館長になるために、先週広島にやってきました。私たちはアメリカ人ですが、同時に世界市民でもありたいと思っております。

すべての国家の人々は、この地球と一緒に住んでいます。私達が行っておりますすべてのことは、他の皆様に影響を及ぼします。私たちの世界は、私たちがすべての人々の尊厳を尊重するときだけ、立派になることができます。

私たちは、広島の経験と英知を学ぶために、ここ広島に参りました。私たちは、この英知をワールド・フレンドシップ・センターに宿泊する海外からの訪問者たちに、伝達するために参りました。私の主人と私は、長い間、平和教育に関心を持っております。

私は今年まで、公立小学校で教師をしていました。私たちの5年生の歴史の授業では、第二次世界大戦について学びました。教科書で米国が、広島と長崎に原子爆弾を投下して、広島で7万5000人、長崎で4万人が死亡したこと、そして、日本が降伏して戦争は終わりましたと、学びました。

これは悲劇的な不完全な説明です。

私たちの生徒たちが、両都市の無実な、特に子供たちに与えた苦しみを理解する方法を知るように教えることが必要です。大きな数字だけでは、私たちの生徒たちに無意味です。悲劇の経験をした人たちが語る話だけが、核兵器で与えた苦しみと損失を伝えることができます。

私は佐々木サダコさんと伸ちゃんの三輪車について語られた本に、心から感謝しております。これらの真実なお話は、生徒たちの心を感動させました。彼らがそれらの話を学んだとき、子供たちが語ることで20万人の人々を感動させました。

私は、私の生徒たちに平和の折り紙の折り方と、平和の文字を書くことを教えました。私が生徒たちに折り鶴の両方の羽に自分の名前を書くことをお願いしました。それは私が、彼らが折った折り鶴を郵送するか、平和公園を訪問（資料館、慰霊碑参拝と献花、原爆ドーム見学、韓国人犠牲者慰霊碑）し、原爆の子の塔に持参したとき、彼らの名前が日本まで旅をして、広島で世界中から多くの他の子供たちが折りました折り鶴と一緒にいるからです。

私の生徒たちは、イリノイ州の小さな町に住んでいます。けれども、私は、生徒たちがより大きな世界とつながっていると、考えてほしいのです。

このことは、彼ら自身が世界市民として考えるようになり、私たちはすべてつながっており、平和のために行動しなくてはならないと、考える第一歩になればと願っております。

これが、世界平和が実現するようという私の希望であり、祈りであります。

ご清聴ありがとうございました。

ワールド・フレンドシップ・センター館長 バーバラ・シェンク



## Script for Peace

Thank you for having me here today.

I am from Laos. My country had been suffer by war a long time too. My parents who experienced the war, told me about disastrous effects from the war on both the combatants and civilians. Today, no war in Lao but there is still many unexploded bombs which are still threatening Lao people. I realized more about disastrous effects of war and atomic bomb when I come to Hiroshima. Indeed, it is not moral to use atomic bomb in any cases. I would like everyone in the world to understand each other, co-exist and have same willing against using nuclear weapons and against the war!

No nuclear weapon!

No war!

Make more smiles and peace for our generations!

August 15<sup>th</sup> 2017  
Aloun Phengmany

Thank you.

平和の鐘の集いにご参加いただき、ありがとうございます。

あなたなら、平和についてどんなメッセージをお書きになりますか。